

九州自然歩道の歩道橋設置による避難経路確保

5か年加速化対策

国土強靱化

災害時の効果発揮事例

NATIONAL RESILIENCE

概要 要：令和7年8月9日から大雨により、福岡県田川郡添田町では350mmを超える総雨量を観測したが、5か年加速化対策にて歩道橋を設置した九州自然歩道(英彦山コース)に被害は発生せず、避難経路が確保された。

対策名：5 自然公園の施設等に関する対策<5か年加速化対策>【環境省】

- 実施主体：福岡県
- 実施場所：福岡県田川郡添田町
- 事業概要：九州自然歩道(英彦山コース)の一部が雨による浸食で通行困難な状況となっていたため、利用者への安全性の向上と自然災害発生時の避難経路確保のため歩道橋を設置した。

- 事業費：0.1億円(令和6年度)
(うち5か年加速化対策(加速化・深化分)0.05億円)

- 災害の外力、被害と効果：

福岡県では令和7年8月9日から大雨が降り、10日には線状降水帯も発生して、日降水量が308mmに達する記録的な豪雨となった。

福岡県田川郡添田町でも大雨・洪水警報が発表され、9日～11日にかけての総雨量が350mmを越えるほどの大雨が降ったが、歩道橋を設置した九州自然歩道では被害は発生せず、公園利用者(耶馬日田英彦山国定公園)に対して、避難経路は確保されていた。また、平常時は安全かつ円滑な歩道利用に寄与している。



対策工実施前(R5)



対策工実施後(R6)



令和7年12月(被災無し)